# 圓明

令和四年　夏号（第一一八号）

大本山 相国寺
相国会本部


相国寺御用達

京名菓 雲龍

雲龍は、俵屋吉富の七代目店主が相国寺所蔵の「雲龍図」（狩野洞春筆）に感銘を受け、うねる雲間を飛翔する力強い龍の姿を表現し創作した一世の名菓です。
大粒の丹波大納言小豆をはじめ、吟味を重ねた最高級の素材を用い、現在も変わらず、熟練された職人の手で、一本一本丁寧にお作りいたしております。
大切な方への心を込めた贈り物に、大切な方への心を込めた贈り物に、京名菓 雲龍をどうぞ…。

京菓子司 俵屋吉富

本店　京都市上京区室町通上立売上ル
電話 (075) 432-2211(代)

烏丸店　京都市上京区烏丸通上立売上ル
電話 (075) 432-3101(代)

URL http://www.shokoku-ji.jp
E-mail kyogaku@shokoku-ji.jp（教学部）

本誌『円明』のバックナンバーについて、
平成20年夏発行の第90号以降は、
相国寺派ホームページ内でご覧いただくことが出来ます。

まるにくん
© 2022相国寺

**◆表紙解説**
ある朝の日。通り雨のあと、日がさし、相国寺法堂上に大きな虹がかかった。古来より中国では虹を「龍」に見立てたというが、今日では世界平和の象徴である。

## 目次

相国会本部役員会をオンライン併用で三年ぶりに開催 …… 2
特別史跡・特別名勝 慈照寺庭園 特別レポート「銀沙灘・向月台」を護り伝える …… 4
菓子歳時記●「夏のお菓子」 京菓子司 俵屋吉富 店主 石原義清 …… 6
相国寺を彩る樹木〈第二回〉竹 植昭 長岡造園 長岡秀晃 …… 8
相国寺の今昔 一枚の写真から 相国寺に残るガラス乾板④「法堂から見る方丈」 …… 9
御挨拶 管長 大龍窟 有馬賴底 …… 10
御挨拶 宗務総長 佐分宗順 …… 12
相国会会長 就任御挨拶 相国会会長 松井八束穂 …… 16
「円明法話」衆生病む、ゆえにわれ病む 大雲寺住職 中川弘道 …… 18
「円明法話」お寺で一服いかがですか 富田寺住職 加藤文保 …… 20
特別史跡・特別名勝 慈照寺庭園 特別レポート「銀沙灘・向月台」を護り伝える 樋口造園 …… 23
寄稿文再録 精進料理店「上幸」主人 上田幸男 …… 26
亀さんおつかい 演劇塾 長田学舎 梶田明子 …… 31
本山だより …… 41
坐禅会のご案内 …… 50
教区だより …… 53
教化活動委員会活動報告 教化活動委員会委員長 佐分宗順 …… 63
相国寺史編纂室だより …… 68
相国寺 秋の特別拝観 …… 84
本山拝観売店より …… 85
北山だより …… 86
東山だより …… 87
承天閣だより「王朝文化への憧れ—雅の系譜」展イベント風景 …… 88
「武家政権の軌跡—権力者と寺」 …… 89
宝物拝見「足利義満像 元鹿苑院什」 …… 90
第四教区善應寺 第三世 五十嵐真吾新住職晋山 …… 91
心のすがた …… 92

# 暑中お見舞い申し上げます

相国会総裁 有馬賴底
副総裁 佐分宗順
会長 松井八束穂
本部長 江上正道
令和四年 盛夏

## 内局

管長 有馬賴底
承天閣美術館名誉館長
宗務総長 豊光寺住職 佐分宗順
承天閣美術館館長
庶務部長 長栄寺住職 鈴木景雲
財務部長 慈照院副住職 久山哲永
法務執事 眞如寺住職 江上正道
教学部長 光照寺住職 荒木文紹
参務 養源院副住職 平塚景山
財務・庶務部員 長得院副住職 有浦宗健
教学・庶務部員 是心寺住職 和田賢明
承天閣美術館事務局長 瑞春院副住職 須賀集信
承天閣美術館参事 普廣院住職 山木雅晶
鹿苑寺執事長 林光院副住職 澤宗秀
鹿苑寺執事 林光院住職 澤宗泰
慈照寺執事長 豊光寺副住職 佐分昭文
慈照寺執事

## 宗議会議員

第一教区 慈照院住職 久山隆昭
第二教区 竹林寺住職 牛江宗道
第三教区 見性寺住職 梶谷承忍
第四教区 善應寺閑栖 五十嵐祖傳
第四教区 眞乗寺住職 木下雅教
第五教区 富田寺住職 加藤文保
第六教区 龍源寺住職 田中恵山
議長
副議長

## 宗務支所正副長

第一教区 林光院住職（正） 澤宗泰
大光明寺住職（副） 矢野謙堂
第二教区 竹林寺住職（正） 牛江宗道
第三教区 本派庶務部長兼任 鈴木景雲
第四教区 眞乗寺住職（正） 木下雅教
園松寺住職（副） 本田真人
第五教区 富田寺住職（正） 加藤文保
第六教区 龍源寺住職（正） 田中恵山

# 相国会本部役員会を オンライン併用で三年ぶりに開催

令和四年五月二十三日

（16ページ、45ページに関連記事）

第五、第六教区を交えて初めてオンライン会議を開催

新会長松井八束穂氏挨拶

開山諷経

松井氏に委嘱状が授与される

大光明寺にて有馬管長相見する一同

特別史跡・特別名勝

# 慈照寺 庭園

特別レポート

## 「銀沙灘・向月台」を護り伝える

（23ページに関連記事）

観音殿と「銀沙灘・向月台」



## 銀沙灘造り替え

銀沙灘①清掃

銀沙灘②攪拌

銀沙灘③側面

銀沙灘④仕上げ

## 向月台造り替え

向月台①-1攪拌

向月台②-1仕上げ

向月台①-2攪拌

向月台②-2仕上げ

菓子歳時記 二

# 「夏のお菓子」

京菓子司 俵屋吉富 店主 石原義清

鉾明かり

七月に入ると、京都は祇園祭となります。上京に在していますと、下京のお祭りである祇園祭は些か縁遠くは感じますが、身近な方の御子息がお稚児さんをお引き受けされると自分のことのように嬉しい気持ちです。「鉾明かり」を菓題にしたり、「巡行」のお菓子をご用意して無病息災を願うと共に、これからの暑い京都の夏に備えています。御茶席のお菓子も夏は如何に涼感を目で楽しんで頂けるかが中心になります。今でこそ、クーラーの利いたお茶室も多いとは思いますが、代々(よよ)はクーラーのない空間なので時より吹いてくれる涼風にありがたみを感じながら目で涼感を味わうのです。

巡行

「アクアリウム」と名付けた寒天の中に水をイメージした餡と金魚を浮かべた最近人気のお菓子は、そうした御茶席のお菓子というよりは、お子様も交えて夏を楽しんで頂くお菓子として創作しました。お菓子は人の和の中にあるのが本来の和菓子だと思っていますので、ああだこうだと召し上がって頂ければ幸いです。「京団扇」は、夏になると京料理屋さんの玄関に飾られる芸舞妓さん方の団扇を京都モチーフにお菓子にしてみました。夏の上用饅頭は少し暑苦しいところもあるかも知れませんが、団扇なら涼しかろうと創作してみたのです。

アクアリウム

京菓子は目で楽しんで、菓銘を耳で楽しんで、そして食べて楽しんで頂けるように設えています。アイスクリームやかき氷とはまた違った夏の京菓子も、心に残る時間になって頂ければ菓子屋冥利につきます。是非。

京団扇

# 相国寺を彩る樹木《第二回》

## 「竹」

植昭　長岡造園　長岡秀晃

今回取り上げるのは日本人にとって馴染みの深い樹木である「竹」です。相国寺には法堂の西側に大きな竹林がありますので、お墓参りの際に目にされる方も多いのではないでしょうか。

相国寺の竹林の竹は「真竹」という種類で、一般に筍として出回ることの多い「孟宗竹」とは異なります。どちらも大型の種類ですが、節の部分を見ることで見分けられます。真竹は節の輪が2本、孟宗竹は1本となっています。真竹は孟宗竹に比べて材質部が薄く、加工がしやすいという特徴があります。

相国寺では各所に竹垣や竹の結界がありますが、この竹林の真竹を材料として使用しています。切る・割る・削ぐ・曲げる等上手く加工するのには技量が必要ですが、様々な場面で使用することのできる優れた庭園資材です。

竹林は放置すると極端に本数が増え、生育が悪くなるだけでなく周辺への悪影響もあるため適期に間引きを行うことで竹林としての景観を保っています。

昨今ではプラスチック等で出来た偽物の竹材も登場し、庭園で自然の竹材が使われる機会が減っています。一方で自然の竹にしか出せない風合いというものがあります。庭師として自然の竹を使う文化を残し、先人たちが培ってきた技術を伝承していきたいと考えています。

相国寺の竹林

真竹の節

**豆知識**

２本の節が真竹の特徴。撫でるように触ってみて引っ掛かりを感じる方が上（末）側です。

竹を加工して使う場合、竹が水を揚げていない秋から冬の時期に切った２年目以降のものを使用します。水揚げしていない時期の竹は材質が良く、虫がつきにくいとされています。



# 今昔 相国寺の一枚の写真から

## 相国寺に残るガラス乾板④

## 「法堂から見る方丈」

解説◎柴田明蘭

今号は、法堂北側から方丈側を望む構図です。建物の配置や形態は現在でも同じですから、一見変化は少ないように感じます。右手には、特別拝観の入口としても使われる立派な唐破風（からはふ）の唐門があり、方丈の北側には大木がたくさんあった事がわかります。昔のカメラはレンズの種類が少なく広い範囲が撮れなかったので、方丈の姿を屋根まで撮影するには法堂の中にカメラを据えなければならなかったことが推測されます。今回の撮影は当時の状況を再現するために法堂内部から撮影しました。

方丈正面のむくり屋根の門が開いており、門の中には方丈の縁側にある階段が柵越しに見えています。その上にある台はお彼岸法要時に使用する施餓鬼棚でしょうか。大きく異なる点は、この門を入って両側の方丈庭園の松が、現在は共に無く、逆に外側に新たに生え変わった事です。現在は白砂が一面敷き詰められている表方丈庭園ですが、以前は松が多く生えていたようです。

今回は撮影場所を特定することは容易でしたが、昔の写真と同じように撮影するには方丈の門を特別に開けて頂くことと、法堂の中からの撮影をすることをお願いしました。

# 御挨拶

管長　大龍窟　有馬頼底

本派寺院御住職の皆様、相国会会員の皆様、暑中お見舞い申し上げます。

この度、相国会会長をお勤め頂きました片岡匡三先生がご退任なされました。長きにわたるご尽力に感謝申し上げます。

新会長は片岡先生と共に長く相国寺を支えていただいている松井八束穂氏にお願い致しました。どうぞよろしくお願いいたします。

先のロシアによるウクライナ侵攻に際して、心を痛めているところです。また、犠牲となった方々には、哀悼の意を表します。

一刻も早い事態の収束を祈るばかりです。

ウクライナといえば、以前、私は、キーウを経由してサンクトペテルブルクへ向かったことがあります。



キーウは、日本でいうと京都のような、良い街であったという印象があります。最近の報道を見るたび、そういった文化的なものも失われるのは惜しいと感じております。

その後、サンクトペテルブルクでロシア正教のナンバー二の方と対談し、その方から、北京にロシア正教の本山を作りたいと聞き、日本にいる我々も応援しますという話をしました。後日、ロシア正教のトップの方から、日露宗教交流を促進しましょうとの手紙をいただきました。

今回の事態に、宗教者として、我々に何ができるか、常々考えている所です。ただ、京都市とキーウは姉妹都市であるということで、京都仏教会を通じて何かできないかと考えています。

仏教は「和」を重んじる宗教であります。そして仏教徒である以上、反戦平和を常に心に置いておくべきでしょう。

最後になりますが、去る五月十四日、京菓子司の俵屋吉富前社長、石原義正氏がお亡くなりになりました。氏は長く相国寺、鹿苑寺、慈照寺の総代として、相国寺一山の諸活動にも多大なる協力をいただきました。ここに謹んで哀悼の意を表します。

皆様も暑い日々が続きますが、引き続きご自愛ください。

# 御挨拶

宗務総長　佐分宗順

相国寺派寺院各位、相国会会員及び檀信徒の皆様、暑中お見舞い申し上げます。

我々の活動に大きな制約を強いてきたコロナ感染症は、変異株の弱毒化が進み、脅威は少しずつ収まる傾向にあり、ようやく世界は経済活動の再開に舵を切り始めたところです。ところがここへ来てまた新たな脅威が世界を襲いました。

ロシアによるウクライナへの一方的な侵略戦争が始まり、世界に大きな影響を与えています。プーチン大統領の無謀なこの侵略に対してウクライナは予想に反して大きな抵抗力で反撃しました。二〇一四年に起こったクリミア侵略の時のように、あっけなく蹂躙されるのではないかという予想に反して、ウクライナの抵抗は激しく、自国の主権と自由を守るために抵抗を続けるウクライナに対して世界の主要な多くの国々は全面的支援に動きました。この事実に私は少し救われた思いになりました。

一方的な侵略行為を世界が無関心で放置するなら、これに倣う事態が今後起こることは容易に想像できます。そんなことになれば世界の平和や秩序は根底から崩壊することになります。ましてや今回の戦争で国連の機能はほとんど役に立たない状態です。最後は話し合いになるとしてもそれに至る過程では多くの人命が失われ悲惨な現実を耐えなければなりません。

平和、人権、自由を叫ぶのは簡単ですが、それを守る努力なくしては簡単に蹂躙されるという現実をこの戦争は改めて我々の前に突きつけてきました。これは我々日本人にとっても対岸の火事ではありません。一日も早くウクライナの領土が保全され、元の状態に戻ることを願い、今私たちにできることを実行して参ります。

この間プーチン大統領が就任以来支えてきたロシア正教会のこの戦争に対する動向も、宗教者として無関心ではいられません。今後ロシア正教会はどういう態度を打ち出すのか注視していきたいと思います。

コロナウイルス感染症の拡散と、ロシアによるウクライナの侵略戦争という、これまでの世界秩序を大きく揺るがす事態に対して、世界は今その対応に力を尽くしています。これからの世界秩序と平和の維持は簡単な課題ではありませんが、我々は実行可能な対応を実践していかなければなりません。

さて本山におきましては、残り少ない任期となりましたが、今まで進めて参りました諸業務のデジタル化と情報処理の改革、又そのセキュリティーの確保、会計システムや決済の改革、組織の合理化やコンプライアンスの確保等、今後更に充実したものにして参ります。大きく変わろうとしている社会の動向を見極め、時流に流されることなく真に必要な改革を引き続き進めて参ります。

相国寺本山においては、相国寺、鹿苑寺、慈照寺、その他関連機関のネットワークが完成し、その運用が具体化してまいりました。これにより三山の会計の連携がより緊密になり、什物やその他の資料が正確に後世に伝わるよう努めてまいります。

去る五月には相国会会長の片岡匡三氏がご勇退されました。片岡氏には心よりの感謝を申し上げ、後任の松井八束穂氏には相国会のさらなる発展にお力添えくださいますよう、お願い致します。

最後に長年相国寺および鹿苑寺、慈照寺の総代としてご尽力いただいた俵屋吉富前社長、石原義正氏が逝去されました。ここにその功績に感謝しご冥福をお祈りいたします。

これから猛暑に向かいます。皆様におかれましては、ご自愛いただき暑さに負けず元気にご活躍されますことを祈念申し上げます。

# 相国会会長 就任御挨拶

相国会会長　松井八束穂（やつかほ）

この度、相国会第一教区理事を仰せつかり、五月二十三日の本部役員会で片岡匡三前会長の後任として相国会会長に選出されました松井でございます。まさに身の引き締まる思いでございます。

私は東京に生まれ、鎌倉で育ちました。現在は京都市左京区の鴨川の辺りで酒造業を生業として居ります。

私にとりまして幸運だったのは鎌倉と京都の共通項、すなわち鎌倉五山と京都五山との御縁であります。鎌倉五山第一刹、建長寺様が宗派の師弟教育のために設立された「宗学林」を前身とする鎌倉学園高校が私の母校であります。京都在住は最早五十有余年になりますが、暗中模索の折りには臨済宗の教義が私の心の安定、統一に導いてくださいました。

臨済禅師の有名な『臨済録』に「一無位の真人」があります。世間のものの見方に影響されない主体性のある自由人を確立せよと諭されておられます。

禅宗の第二十二祖、摩拏羅（まぬら）尊者の偈には「心は万境に随って転ず、転ずる処実に能く幽なり」とあります。

人生航路は順風満帆とは参りません。時には猛烈な逆風が吹き荒れます。この課題に私達が生まれながらに具える仏心は柔和であるがため、如何なる状況に置かれてもしなやかに対応することが出来ます。「幽」は（言葉では表現出来無いほど見事）さすれば現実をありのままに受け入れて、喜びも悲しみも何時までも引きずらないと言う事であります。

何分浅学非才の不束者ではありますが、微力ながら当会の為に懸命な努力を傾注する所存でございます。何卒ご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

# 衆生病む、ゆえにわれ病む

大雲寺住職　中川弘道

コロナ禍と言われるようになって二年数ヶ月がたちました。五月の連休後の感染状況が危惧されていましたが、感染者数も減少傾向にあり、マスク着用についても屋内であっても条件によって外すことが可能になるなど、かなり緩和されてきました。もっとも日本人の場合、感染リスクを気にする方や、同調圧力を感じる方もあるので、専門家がゴーサインを出しても一気に脱マスク化とまでは進まないかもしれません。

あまりにも長いコロナ禍での生活の中で、経済的な不安や、自由を制限されることからストレスを抱え、心のバランスを崩しつつ病などの精神的疾患を発症される方が増えました。また、ご家族の方が病気で入院されても、病室に入れず面会が制限されるという状況が続きました。病院側がしっかりケアをしてくれるとしても、直接会って自分の目で状態を確認したいというのが看護する家族の心情でしょう。

ところで、大乗仏典の中に演劇のような構成で在家者の立場から仏教の奥義を説いた『維摩経』という経典があります。登場人物は、お釈迦さまとその弟子や菩薩たち、そして維摩居士。この維摩居士は、本編の主人公で、僧侶ではなく大富豪の商人でありながら菩薩行（自分だけが悟りを得るのでなく、すべての衆生と共に悟りを目指すこと）を実践した人物です。

ある時お釈迦さまは、神通力によって維摩居士が病になっていることを知り、弟子や菩薩たちに自分の代わりに維摩居士の病気見舞いに行くように指示します。ところが見舞いの候補者たちは、それぞれが維摩居士と問答でやり込められた経験があり、誰もが辞退してしまい、最後に指名を受けた文殊菩薩がお見舞いを引き受けることになります。

文殊菩薩は維摩居士に会うと「あなたのご病気は、どうして起こったのですか。もう長く病んでおられるのですか。どうすれば快復するのですか」と尋ねます。これに対する維摩居士の答えについて、花園大学元学長の西村恵信先生の著書から引用させていただきます。

（維摩）この世界には愚かな知恵（愚痴）があり、それによって執着というものが起こる。それこそが病いの原因なのです。

一切の衆生がそのようにして病んでいるから、私は病んでいるのです（「衆生病む、ゆえにわれ病む」という有名な語）。衆生の病いさえなくなれば、私の病いも無くなるのです。

もし衆生が病いから抜け出せば、菩薩にも病いはありません。子どもが病いになれば、その親も病むようなものです。子の病

いが癒えれば、親もまた治ります。

菩薩は衆生が病めば、みずからも病み、衆生の病いが癒えたら、菩薩の病いも癒えるのです。菩薩の病いはまさに、大悲によってこそ起こるのです。（禅文化研究所『維摩経ファンタジー』）

このように維摩の病は、世間の人達が苦しんでいるのを見て、共に苦しみ、痛みを共にしようという病でありました。すなわち大慈悲の心であったのです。

仏典には「大いなる慈しみとは他人に楽しみを与えることであり、大いなる悲れみとは他人の苦しみを除き去ることである（抜苦与楽）」とあります。コロナ禍で心が荒みがちな昨今ではありますが、人との繋がりと共に思いやりの心は持ち続けたいものです。

# お寺で一服いかがですか

富田寺住職　加藤文保

それは令和二年、来る。最初は外国の出来事から、少しずつ国内へ忍び足で近づいてくる。お寺によっては鴬張りに設える廊下があると思うが無音と言うより静かな音に似る、あまり近づいてほしくない音で迫ってくる感じである。誰しも他人事で済ませるうちはよいが、いざ、自分の身に起こると「なぜ、どうして、」と頭を抱え込んでしまう。「ソーシャルディスタンス」が囁かれだして三年目に入る。自然を目の前にしていつも思うことは「ままならない」と云うこと、仏教で云う「無常」がそれを現すことではないのかと私は思っている。「ままならない」モノをどうにかできないものか、ハウツー本のように「こうすればこうなる」では通用しない。筆を執りあれやこれやと考えるがうまい言葉が出てこない。そこで一計を案じ、一日のうち何度となく繰り返し脳裡をよぎる「老師の言動」を書き記すことにする。それぞれ自分自身の経験に照らし合わせてかみしめて頂きたいと思う。

先ずは旅先の出来事から、信者さんのご厚意により自宅に泊まらせていただいた。朝目覚めて起き出そうとした時、「まだ休んでいなさい」の一言。不意を衝く一言に、老師の侍者に対する「ゆっくり休ませてやろう」との気遣いを感じ、親孝行ならぬ老師孝行の思いで受け入れる。老師の優しさに清々しい朝を迎えるのも束の間、朝食を頂く時、老師のお話にわが耳を疑う。老師の会話で「油断すると…朝、ワシが起こすんじゃ…云々」と。人生ままならぬ厳しさを老師より有難く学ぶ。

次に老師の師匠のお話し、当時不治の病と言われた感染症に罹られ、奥座敷にとどめ置かれ病で臥す寝床で詠まれた一句をご紹介する。

『大いなるものに抱かれあることを
今朝吹く風の涼しさに知る』

必要以外誰も訪れる事のない部屋で孤独感に災悩む時、この世に生まれ来るものは誰しも愛される存在である事を、朝吹く風に気づきがもたらされた老師の師匠の一句。何故か、私にとって忘れられないもので折に触れて思い出される。

老師がお住まいになられるお寺の本堂杉戸、他の杉戸は全て春夏秋冬の草花で描かれるが一枚だけ異質なものがある。ある高僧を祀ったこの寺院は、戦国の世を生き抜いた武将が供養のために再建したもので、異質な杉戸は人生の大切なメッセージと思われる。今は、色あせてそばに近づいても説明をされてやっと分かるぐらいである。本堂にお参りすると必ず目に入る位置に置かれ、私はこの杉戸に描かれる「獅子の子落とし図」を、育てるものと育つものの深い愛情の形を描いたものと考えている。

お寺や神社はメッセージの宝庫かもしれない、そしてそこに住まう者も様々な経歴を経て現在に至っている。今、インターネット環境が整っていればSNSやリモートでお寺を散策、住職と世間話をすることが可能である。

「こうしなければならない」そのような事もあると思う。しかし、「なぜ、そうしなければならないのか」と問うてもよいのではないのか。ままならない無常には、四角四面に捉えるのではなく「こういうやり方もできる」など、もっと柔軟に対応しなければならない。

今はあまり聞かれなくなったが、目的とは別の思いがけないものを必然なのか偶然か巡り合う「セレンディピティ」と言う言葉がある。ノーベル賞受賞者の話で、ある実験の過程での失敗がもとで発見される事をよく聞く。読者の皆様は、法要でお寺に来られる事が多いかもしれませんが、何気なくお寺へ訪れてみてはどうでしょうか。日常とは違う空間にわが身を置いて沢山の気づきに出会っていただきたいと、今日も仏様に手を合わせ世間に鐘を響かせる。



特別史跡・特別名勝

# 慈照寺庭園

特別レポート

## 「銀沙灘（ぎんしゃだん）・向月台（こうげつだい）」を護り伝える（樋口造園）

（巻頭カラー4ページに関連記事）

「国宝銀閣（観音殿）」に目が行きがちな、慈照寺。しかし、境内の景色をより印象的なものにしているのは「白川砂」を豊富に使用した「方丈」前の砂盛りの美しい庭園である。

なかなか目にすることがない歴史的庭園の維持管理の様子をレポートする。

観音殿と銀沙灘・向月台

不定期ではありますが、年間約十回造り替えています。六～七人の職人が晴れた日に、一日がかりで一気に仕上げます。
（銀沙灘は六～七人・向月台は四人）

## 銀沙灘

（午前　所要時間　約三時間三十分）

**作業工程**

①清掃　葉一枚残さず、綺麗に掃除します。

②攪拌（かくはん）　表面に十分な水を撒きレーキを使って浅い深いのムラが無いように約十センチメートル攪拌して均等にします。
（浅い深いがあると真っ直ぐな線が引けないため）

③側面　直線は真っ直ぐに、曲線は自然なカーブでムラが付かないようにコテで締め固めます。

④仕上げ　噴霧器を使い、水で白砂を洗い出します。
（水をかける事により粒子の小さな山砂が沈んでいき、粒子の大きな白砂が洗い出されていきます。）
その後、雨が降るたびにコテのムラが消えて、白くなりさらに美しい姿となります。

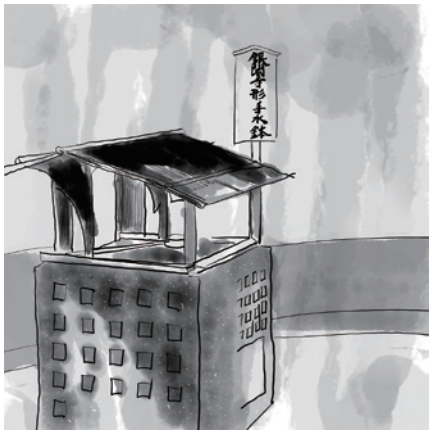


## 向月台（午後　所要時間　約三時間）

**作業日程**

①攪拌（かくはん）　表面を約二センチメートル削り落とし、落とした砂に水を入れ、攪拌して練り混ぜコテで側面に付けていきます。
上部に作業員が乗り、上部より下部に向かって仕上げていきます。上部は水平に、側面は左右の傾斜角度が同じになるようにコテで締め固めます。

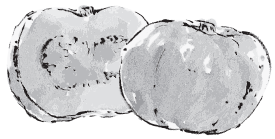
②仕上げ　銀沙灘と同じように噴霧器を使い、水で白砂を洗い出します。



# 寄稿文再録

## うまそうな色

精進料理店「上幸」主人　上田幸男



調理をしていて材料の味も色も良くしたいと願うのですが、両方が中々うまくいってくれません。

例えば、胡麻どうふを作るのに、仕上りを白く見せたいと思って胡麻を煎るのを控え目にすると、胡麻の香りが出ず、おいしくありません。味の点から考えて少々黒くなっても、胡麻を適度まで煎らなければなりません。

湯葉も、白くふっくらと煮上げたいと考え、お醤油をなるべく使わないで、お塩で味付けしますと、どうも良いお味になってくれません。

牛蒡をきれいに白くしようとして、包丁でこそげ、皮を取り過ぎますと、あの外皮のうまい味を全部逃がしてしまいます。

このように、味を良くしようとすると色が悪くなるし、色を良くしようとすると味が思うように出ない。

しかし、ここで申し上げたいことは、煮上りの色が少々黒くなっても、そこに「うまそうに出来上がった」と言う色があります。

カボチャの煮上りが全部黄色でなく、黒くなっている部分があっても、それはうまそうな色で、食べて見たいなーと思わず食欲が出ます。きれいに煮上っているカボチャは、これで味があるのかと思う位い、水っぽいものが多々あります。

精進料理では煮物が多くありますが、煮物は、焼物や揚物に比べて、美しい色が出にくい調理法です。そこで味を第一に考えておいて煮上りを「うまそうな色」にしたい訳です。

花百合根の甘煮は、少し黄いろになって来てピカッと光るくらいが良いでしょうし、蓮根や牛蒡も少々黒くなっても、良い味にしようとしていると、それなりの「うまそうな色」になってくれます。

料理は先ず見た目に美しく、と言うことは大切なことでありますが、色合や形ばかりを優先させることも出来ず、あれやこれやと考えながら調理をしていて、味も、色もうまくいき、望む食器に上手に盛付られた時は、大きな喜びであります。しかし、そう言う風にうまくいったなと思う事は、今までに数少ないことでございます。

本誌第46号（昭和61年夏）より再録

# 柚べし

五月中旬を過ぎると花柚子（はなゆず）が出はじめます。白く可愛いのを吸物に浮かべいただきますと、ほのかに上品な香りがいたします。

花が落ちて小さな実が見え出しますと粒柚子（つぶゆず）です。切り離さずに上より少し庖丁目を入れて吸口に用います。

豆粒のようなほんの小さな柚子ですが、やわらかな芳香を放ち梅雨どきを忘れさせてくれます。

柚子は盛夏を迎えてだんだんと大きくなり、親指大からピンポン玉大の時には輪切り柚子・半月（はんげつ）柚子として同様に吸口にします。

又この頃に小芋をやわらかく淡い味に煮て、ガラス小鉢に七個程盛りつけて、いただく直前におろし柚子にして、ひとつまみのせますと小芋の味が一段と引き立ちます。

秋になりみかん大に成長した柚子は、和えもの、煮もの、焼きもの等にその持ち味を大いに発揮いたします。

この季節感あふれる柚子を何とか一年間味わえないかと考えられたのが『柚べし』です。



十月も中頃になりますと、柚子は寒さから身を守ろうとして黄色く変色してまいります。よく熟し完全に黄色くなったところの中程の大きさ十個を選びます。

一昼夜水につけ、翌朝引き上げて二対八の割合で切り、身の中をスプーンできれいに取り除きます。この時内側の綿状になった白い部分は出来るだけきれいに取ると良いのですが、決して破ったり、穴が出来ないよう気をつけなければいけません。

次に甘くない味噌三百グラム、餅粉五十グラム、水百八十ccをよく混ぜ合わします。

この時味を見て、からい時には砂糖又は味醂を加えて良いのですが、決して甘くならないように、甘くするとお菓子になってしまいます。

ボールに入れて十五分蒸し、冷めたところを柚子の中へ三分の二詰めます。蒸し器に並べ柚子釜の蓋（二対八に切った二の部分）をして、約七時間蒸します。

三分の二しか味噌を詰めないのは、この長時間の蒸しで味噌が膨張して丁度柚子釜一杯になるからです。又先程のスプーンで内側を除く時、破れたりしていると味噌が全部外へ流れ出してしまいますので要注意。

黒いおはぎのようになって来たのを見て取り出し、ザルに並べて約一ヶ月風

通しの良いところで干します。太陽に当てると〝日なた臭さ〟が残りますのでこれも注意しましょう。

この間、手で何度も形を整えてやり柚子釜の蓋等も良くくっつけてやると良いと思います。

このように一寸手間を要しますが、作っておきますと何かの時には切るだけですぐに使えますし、その味わい深いのがきっと喜ばれます。私は毎年三百個程作りますが、料理の一品に、手土産に、又おせち料理に間に合うようにと作ります。

研修会で精進料理指導をする上田氏（左）
本誌第37号（昭和57年正月）

柚子釜に味噌を詰める段階で、胡桃（くるみ）、胡麻、とうがらし粉等、適宜に入れるのも良いでしょう。

暑くなって来たら冷蔵庫へ入れておくと、来秋までの一年間絶対に大じょうぶです。

柚子は十二月から二月まで、『かこい柚子』で香りが一層高くなります。味噌と調理いたしますと不思議にその香りや味が保存され、昔の人の智恵に感服いたします。

本誌第49号（昭和63年正月）より再録

# 「亀さんおつかい」

演劇塾 長田学舎 梶田明子

「かめさぁんぇ～　はなしがめぇ～」

六蔵は、ゆっくりと煙管をふかし、時おり思い出したように売り声を上げる。

橋のたもとの柳の木陰に座り込んだ六蔵の前には、水が張られた桶が置かれ、中で亀たちがちゃぷちゃぷと水音を立てている。現代では見かけなくなった夏の風物詩、放し亀の商いだ。

放し亀売りとは、放生会にちなんだ商いである。放生会と言えば、生き物を慈しみ、殺生を戒める仏教の教えに基づいた行事で、捕らえた生き物を殺さずに、生かしたまま放してやることによって功徳を積む。また、放してやった生き物たちは、亡き人の元へ便りを伝えてくれるという。お盆の頃になると、道行く人々は放し亀売りから亀を買い、近くの川に放してやる。こうして人々は亡き人へ思いを馳せ、現世の幸せも祈る。

陽はすでに西に傾いているのに、変わらず厳しい日差しが照りつけている。さっきまで子亀と戯れていた子どもたちも、あまりの暑さに川へ遊びに行ってしまった。大橋から町へと続く乾いた道には、通りかかる人もいない。

六蔵は一服した後、桶の中の亀を一匹一匹拾い上げては、丹念に世話を始めた。皮膚に病は無いか、爪が割れていないか。そして、甲羅の汚れを柔らかい手ぬぐいできれいに拭ってやる。

（六さんは、ほんまに亀さんがお好きなんどすなあ）



お多恵の優しい声が聞こえたような気がした。六蔵は思わず、傍らに置いてある小さな腰掛けを見る。だが、そこには誰もいない。

お多恵は、金魚売りの商人だ。まだ子どもだった六蔵がお多恵に初めて会った時、お多恵はすでに名うての金魚売りだった。お多恵の売り声は、美声ぞろいと言われる金魚売りの中でも格別だった。その声は、水面に美しい波紋をひろげながら、すいと泳ぐ金魚の姿を彷彿とさせた。夏の日差しで焼かれた暑い小路を、そよそよと涼やかで優しい風が吹き抜けていくような、そんな声だった。

六蔵の家は「風月屋」という金魚屋を代々営んでいる。鴨川のほとりに店を構える「風月屋」は、生物を扱う卸売の元店で、金魚、鯉、目高を中心に、文鳥、雀、亀から朝顔や菊、野菜苗など、商品になる生き物や植物を仕入れて育て、行商を行う商人たちに卸している。

六蔵は、普段は店の商品である生き物や植物の世話をして暮らしているが、夏のこの時期だけは、亀たちを連れて商いに出る。なに、自分がいなくても、しっかり者の嫁が店を切り盛りしてくれる。

亀の世話を一通り終えると、六蔵はぼんやりと夏の空を見上げる。青空に浮かんだ白い雲が、お多恵の姿に見えてくる。お多恵は、真っ白な手甲脚絆をつけた金魚売りの装束だ。

（この手甲と脚絆は、伊達ではありまへん。金魚さんを、お殿様お姫様のよう

に担ってあげるためどすえ）また、お多恵の声が聞こえる。

十四の歳に母を亡くした六蔵は、放し亀売りを始めた。夏になると、六蔵は柳の木陰に陣取って亀を売る。つぶやくように売り声をあげ、亀の世話をし、亀に寄って来る子ども達の相手をしながら一日過ごす。すると夕方、一日の商いを終えたお多恵が通りかかる。お多恵は六蔵を見ると、いつも嬉しそうな顔になり、傍らの小さな腰掛けに腰を下ろす。二人並んで麦湯を飲みながら、商いでの出来事や金魚の話、亀の話などして半刻ほど過ごす。麦湯を飲み終わると、お多恵は再び天秤をかつぎ、帰っていく。今思えば、この夏のひとときに六蔵は救われた。

お多恵が亡くなったと知らせが届いたのは、今年の春、まだ肌寒い時期のことだ。

「まだお若こおしたのに…悲しいことどす」

「あの声が聞けなくなるんやねえ…」

店の女たちの会話を聞きながら、六蔵は、ただ空しかった。お多恵の唄も、商いも、心も、笑顔も、すべてがお多恵と共に消えてしまった。

（ご祝言、ほんにおめでとうさんにござります）

そう言うとお多恵は、まぶしそうに微笑んで六蔵を見た。数年前のことだ。この時を境に、お多恵は六蔵に寄り付かなくなった。橋のたもとにいる六蔵を見て

も、遠くから会釈するのみだ。
——お多恵さんは、幸せやったんやろか…
六蔵は、何か大きな忘れ物をしているような気がした。

「あぶない！」
誰かが叫ぶ声で、六蔵は我に返った。通りの向こう側を、大きな駕籠が勢いよく通り過ぎて行った。伸びあがって向こうを見ると、もうもうとした土煙がおさまった後に、女子が倒れているのが見えた。六蔵は慌てて駆け寄った。
「大丈夫か」
女子は、自身が担っていた天秤ごと倒れていた。天秤は両の手桶が外れ、片方は割れて壊れてしまっている。桶から飛び出した中身が、ぴちぴちと跳ねている。金魚だ。もう片方は、女子が転びながら必死に受け止めていた。中の金魚はかろうじて無事らしい。六蔵は地面でもがいている金魚たちを手早く拾い集めると、女子が抱え込んでいる手桶の蓋を開けて放り込んだ。
「つかまりや」
六蔵は片手に無事だった手桶を持ち、もう片方の手で女子の肩を抱えると、自分の筵の所まで戻った。
「うちは大丈夫どす。それより金魚さんが」



六蔵は亀を入れていた桶の一つを持つと、急いで川に降り水を汲んだ。戻ってくると、手桶の中でひしめいている金魚をすくい上げ、きれいな桶の中に移す。先程の衝撃で、金魚たちはかなり怯えていた。びくびくと落ち着かなげで、桶の端にぶつかったりしている。女子も座り込んだまま、必死で金魚を移している。ふと見ると、白い脚絆の片方が血で赤く染まっていた。
「こらいかん、どこかできれいな水もろうて来たるしな」
六蔵は慌てて手桶を持ち、走りだそうとした。その時、
「金魚～え～　きんぎょ　金魚～え～　きんぎょ」
優しい唄声が聞こえた。六蔵はは

長田純著「町かどの藝能」より

っとした。それは、懐かしいお多恵の唄声だった。
（こうやって唄うと、金魚さんも落ち着いてくれはるんどすえ）
お多恵の言葉が甦る。
六蔵は思い出した。この女子は、お佐喜だ。へっぴり腰で天秤を担ぎ、お多恵の後ろに必死で付いていた見習いだ。「孤高の芸商人お多恵が、ひょろひょろの見習いを連れたはる」と一時店でも話題になった。
「お多恵姉さんが、いつも金魚さんに唄うてはったのどす。そやから、うちも…」
お佐喜は桶に顔を近づけると、優しく唄いだした。声によって水面に小さく波紋がひろがる。すると、今まで浮足立っていた金魚たちが、次第にゆっくりと落ち着いてくるように見えた。
「…お多恵さんと同じや…」
「いいえ…。うちは、お多恵姉さんの足元にも及びまへん。…いつも、お多恵姉さんやったらどうされるやろ、お多恵姉さんやったらどう言わはるやろと、悩んでばかりどす」
そう言って、金魚たちを心配そうにのぞき込むお佐喜の姿が、お多恵と重なった。六蔵の胸に、熱いものが込み上げた。
「…お多恵さんは、あんたはんの中で生きたはるんやな…」
驚いたように六蔵を見るお佐喜の姿がぼやけて見えた。お佐喜の目からも、大粒の涙がポロッとこぼれた。六蔵は耐えられなくなって、お佐喜に背中を向け顔を隠した。
六蔵は、桶に入っていた亀たちを、一匹一匹、全部川へ放した。
お多恵への、たくさんの想いが届くよう、全部放した。そして、川の水で盛大に顔を洗った。
「お多恵さん…おおきに」
六蔵は、空に向かって一人呟いてみた。
その時、そよ風が吹いて、柳の葉をゆらゆらと揺らした。涼やかで優しい、秋の風だった。

## 【おさだ塾自主公演のお知らせ】

### 「おさだ塾」は、三年ぶりに『町かどの藝能』公演を行います！

江戸時代―「都」であった京の町なかは、全国から上ってきた都見物の旅人でにぎわっていました。己の持ち芸でもって商いをする芸商人にとって、京の町かど、四条河原や社寺の境内は、京の町衆や旅人をお客さんにしての檜舞台でした。

華麗な芸の華が日々咲き競っていた京の町かどで、互いに研鑽し、しのぎを削った芸商人たち―そんな芸商人の芸と商いを、劇場でごゆっくりお楽しみください。

令和四年十一月十八日（金）十八時半
十九日（土）十三時・十七時
二十日（日）十三時・十七時

於・京都府立文化芸術会館　三階和室

お問い合わせ／おさだ塾　TEL・FAX（〇七五）四三一―六六八一
ホームページ／http://www.osada-jyuku.com

## 本山だより（令和三年十一月～令和四年六月）

○鹿苑寺開山忌

十一月二十一日、鹿苑寺（山木雅晶執事長）では開山忌並びに開基足利義満公の諷経が厳修された。本年はコロナウイルス感染症対策として、鹿苑寺山木執事長、澤執事のみにて執り行われた。

○臨黄教化研究会

二月十六日、臨黄教化研究会が開催された。コロナ禍の状況を鑑み、全てオンラインで行われた。

横田南嶺老師（円覚寺派管長・花園大学総長）による基調講演、「コロナ禍に思う―変わるものと変わらないもの―」を拝聴し、その後質疑応答が行われた。本派からは教区順に荒木泰量師（第一教区光源院副住職）平塚景山師（同養源院副住職）、有浦宗健師（同長得院副住職）、須賀集信師（同瑞春院副住職）、荒木文紹師（第二教区光照寺住職）、佐々木奘堂師（第三教区天正寺住職）、加藤幹人師（第四教区南陽寺住職）の七名と江上教学部長が参加し、研鑽を積んだ。

○禅文化研究所理事会

三月五日、公益財団法人禅文化研究所理事会が同所にて開催され、佐分宗務総長、久山財務部長が出席した。

○定期宗会

三月九日、各教区から登山した六名の宗会議員、評議会議長、鹿苑寺・慈照寺各代表、内局員全員の計十六名の出席のもと、令和三年度定期宗会が本山寺務棟桂芳軒で開催された。開会前に大光明寺にて各宗会議員が有馬

大光明寺にて有馬管長と相見する各教区宗議会議員

管長に相見し、桂芳軒にて佐分総長を導師に開山諷経の後、田中恵山師（第六教区龍源寺住職）を議長とし審議に入った。令和二年度相国寺派・相国寺本山決算報告、令和四年度相国寺派・相国寺本山予算案が承認可決された。

令和3年度定期宗会



○同宗連第一連絡会

三月十七日、同宗連第一連絡会が、オンラインにて開催され、江上教学部長、有浦教学部員が参加した。

一昨年の緊急事態宣言発令以降、開催を見送られており、今回三年ぶりの開催となった。

○春期巡教

臨済宗連合各派布教団に所属する本派布教師の「令和四年定期巡教」は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、すべて中止となった。

○相国寺春季彼岸会

三月二十一日、大通院（小林玄徳住職）において、相国寺春季彼岸会が厳修された。コロナウイルス感染症対策として、山内寺院の一部和尚のみで法要が執り行われた。

○第四教区若狭少年研修会中止

例年四月初旬に開催する第四教区若狭少年研修会は、一昨年、昨年に続き、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止となった。

○同宗連総会

四月十九日、六十四教団で構成される『同和問題』にとりくむ宗教教団連帯会議（同宗連）の第四十二回総会が、昨年に引き続きコロナ禍中ではあるが京都市内のホテルで開催され、江上教学部長が出席した。

同宗連第42回総会

○入制行事・入制開講式

五月一日、本山にて祝聖ならびに楞厳会（りょうごんえ）法要の後、相国寺専門道場にて入制開講式ならびに大般若祈祷が執り行われた。

入制開講式は、コロナウイルス感染症対策として、山内寺院の一部和尚のみの出頭にて法要が執り行われた。

法堂での楞厳会諷経

入制開講式



○慈照寺開山忌

五月二十一日、慈照寺（佐分宗順住職）では開山忌並びに開基足利義政公の諷経が厳修された。本年も新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、出頭和尚も法類等に限って執り行われた。

（巻末カラー87ページを参照）

○相国会本部役員会

五月二十三日、本山寺務棟桂芳軒において、令和四年度相国会本部役員会が、オンラインも併用して開催された。

はじめに、平成十八年より十六年間にわたり会長職をお勤めいただいた片岡匡三氏の退任に伴い、松井八束穂氏が新会長に選出された。

令和三年度事業報告、令和三年度決算報告、令和四年度事業計画案、令和四年度「相国会本部研修会」について、令和四年度予算案の五つの議案について採決し、それぞれ承認可決された。

会議終了後、出席理事・顧問は大光明寺にて、管長猊下と相見し、新会長松井八束穂氏へ委嘱状が授与された。

本会議の決議により、本年度の「相国会本部研修会」は、コロナ禍収束の見通しがたたない為、引き続き中止することとなった。

令和四年度相国会出席理事、顧問は左記の通り。

| 理事 | | 顧問 | |
|---|---|---|---|
| 第一教区 | 松井　八束穂 | | 澤　宗泰 |
| 第二教区 | 波多野　外茂治 | | 牛江　宗道 |
| 第三教区 | 玉倉　忠彦 | | 梶谷　承忍 |
| 第四教区 | 伊藤　彰 | | （欠　席） |
| 第五教区 | 杉原　定 | | 加藤　文保 |
| 第六教区 | 工藤　義信 | | 田中　恵山 |

（第五、第六教区はオンラインでの参加）

（巻頭カラー2ページ参照）

○南禅寺派住職副住職研修会ご一行来山

五月二十五日、南禅寺派住職副住職研修会にご参加の僧侶が研修の一環で相国寺を参拝された。

法堂、方丈、開山堂を巡拝し、方丈では諷経を行った。その後承天閣美術館を見学され、次の研修へ向かわれた。

南禅寺派住職副住職研修会参加僧侶による諷経

○令和四年度春の特別拝観

三月十九日より六月五日まで、春の特別拝観として法堂・方丈・開山堂を公開し、一一、〇一〇名の参拝があった。

開催前日には、春の特別拝観の無事円成、疫病退散、世界平和の祈念と、お守りの祈祷法要が行われた。

秋の特別拝観は、九月十七日（土）より十二月十一日（日）まで、法堂・方丈・開山堂を公開の予定である。

（巻末カラー84ページを参照）

拝観ポスター

春の特別拝観前日の祈祷法要

特別拝観の模様

○臨黄合議所総会

六月十日、黄檗山萬福寺（宇治市）において臨済宗黄檗宗連合各派合議所の総会が開催され、相国寺派から鈴木庶務部長（宗務総長代理）、久山財務部長、江上教学部長が出席した。総会に先立ち各山開山諷経、黄檗宗近藤管長猊下の垂示、次いで総長会、各部長会に分かれて会議が行われた。総会では、「宗勢調査について」、令和五年二月に予定されている「第十七回臨黄教化研究会について」

などの報告がされた。次回の理事会は九月二十八日、教学部長会は九月二日にそれぞれ予定されている。

○観音懺法会「ご先祖追善供養」中止

伊藤若冲筆「動植綵絵」コロタイプ複製画三十幅を方丈に掛けて公開していた観音懺法会「ご先祖追善供養」は、一昨年、昨年と同様に、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止となった。

○観音懺法会

年中行事の一つの「観音懺法会」が、恒例により六月十七日午前七時半より厳修された。一昨年、昨年に引き続き本年も、新型コロナウイルス感染症対策として、参拝者の受け入れは取りやめ、僧侶のみにて執り行われた。

前述の記事の通り、観音懺法会「ご先祖追善供養」が中止となり、「動植綵絵」コロタイプ複製画を掛けることが見送られたため、代わって文筆宗言筆「三十三変相観音図」を掛けて観音懺法会を執り行った。

懺法会にて散華する一山僧侶



諸役は次の通り。

◆役配

導師　宗秀塔主（林光院副住職）
香華　泰量塔主（光源院副住職）
自帰　慈照大和尚
打磬　景山座元（養源院副住職）
太鼓　賢明東堂（是心寺住職）
大鈸　文紹座元（光照寺住職）
中鈸　宗健座元（長得院副住職）
小鈸　周真座元（慈雲院副住職）
維那　普廣和尚

鼓鈸運び

昭文塔主（豊光寺副住職）
集信座元（瑞春院副住職）

◆お詫びと訂正

「円明」第一一七号掲載分に誤りがありました。左記のように訂正してお詫び致します。

●三ページの「法堂での法要」の画像を普明忌のものとして紹介いたしましたが、開山毎歳忌の画像の誤りでした。

●三一ページ二行目

（誤）給弧・　→　（正）給孤・

●五三ページの「本山だより」、小林老大師の開山毎歳忌香語（三句目、四句目）に誤字がありました（　部分）。

開山毎歳忌香語

普明密付蘊相諳　　普明に密付して相諳を蘊む
冷似氷青碧於藍　　冷には氷を以して青は藍より碧たり
欝郁年山陰涼溢　　欝郁たる年山陰涼に溢る
遥望六百七旬龕　　遥望六百七旬の龕

玄徳九拜
定中昭鑑

## 坐禅会のご案内

※現在、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、本山維摩会ならびに東京維摩会は**休止しております。**再開予定等の詳細に関しましては相国寺派ホームページをご覧ください。

### 本山維摩会（ゆいまかい）　※現在休会中

◆毎月第二・第四　日曜日開催（※一月第二、八月第二・第四、十二月第四　日曜日は休会です）

会　場：相国寺　本山大書院

時　間：午前九時より十一時迄

内　容：坐禅（九時～十時半）法話（十時半～十一時）

※最新の情報は、相国寺派ホームページをご覧いただくか、相国寺（電話〇七五-二三一-〇三〇一）までお問い合わせ下さい。

### 東京維摩会（ゆいまかい）　※現在休会中

会　場：相国寺東京別院　方丈・客殿

◆**有馬管長坐禅会**　時　間：午前十時半より正午頃迄　内　容：提唱、坐禅、茶礼

◆**小林老師坐禅会**　時　間：午後一時より三時半迄　内　容：提唱、坐禅、茶礼

※最新の情報は、相国寺派ホームページをご覧いただくか、相国寺東京別院（電話〇三-三四〇〇-五八五八）までお問い合わせ下さい。



## 坐禅のすすめ

自宅で一人でもできる坐禅を、ご紹介させていただきます。

①静かな環境で

スマートフォンなどは離して、余計な雑音は除いてください。

②楽な姿勢で座りましょう（調身）

座布団でも、椅子でも構いません。背筋を伸ばして、動かず安定する姿勢をとってください。

③呼吸をゆっくり深く（調息）

特に息を吐く方を「ゆっくり長く」と意識して行ってください。

④「なにもしない」をする（調心）

ゆったりと心を落ち着けて、頭の中を空っぽにしてみましょう。

一日五分～十分で構いませんので、毎日すわってみませんか。

## 教区だより

### 第一教区

○第一教区総会

二月十五日、第一教区宗務支所総会が相国寺宗務本所内で開催され、各寺院住職、副住職、ならびに閑栖和尚の計十八名が出席した。昨年度の会計報告と、新年度の予算案について決議された。

第一教区宗務支所総会

○藤森兼明氏より有馬管長肖像画寄贈

三月二十九日、大光明寺（矢野謙堂住職）にて、有馬頼底管長の肖像画が、洋画家の藤森兼明氏より寄贈され、その贈呈式が行われた。

藤森氏は富山県出身で、日本芸術院会員、日展顧問、光風会理事長等を務めておられる。

有馬管長肖像画を寄贈した藤森氏と有馬管長

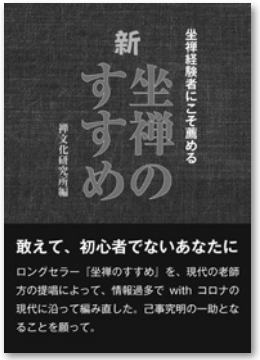



## 新刊案内　好評発売中！！

坐禅経験者にこそ薦める

# 新 坐禅のすすめ

禅文化研究所 編



内容見本

### 時代に沿って編みなおした一書

ロングセラー旧刊『坐禅のすすめ』を、現代の若き老師方の提唱を得て新たに編んだ。坐禅に関する指南書は、今や多く刊行されているが、本書は敢えて坐禅経験者に読んで頂きたいものとして編集した。
情報過多の時代、またコロナ禍の時代に、私たちは坐禅によって、どう捉え、どう見つめていくことができるだろうか。

●もくじ

○坐禅儀を読む……政道徳門（円福僧堂師家）
○実習　白隠「内観の法」……松竹寛山（平林僧堂師家）
○対談　「坐禅で腰を立てるとは」……横田南嶺（円覚寺派管長）・佐々木奘堂（相国寺派天正寺住職）
○佐々木奘堂和尚推奨の坐禅の姿勢（写真解説）
○文献にみる坐禅の変遷……舘隆志（日本仏教史研究・曹洞宗僧侶）
○禅宗用語解説・坐禅会常用経典

定価 1,320円（税込）
A5判並製／186頁／ISBN978-4-88182-328-6
※書店やネットでも購入できます。

お申し込み、お問い合わせは下記まで

公益財団法人 禅文化研究所
〒604-8456 京都市中京区西ノ京壺ノ内町 8-1 花園大学内
TEL 075-811-5189 FAX 075-811-1432
E-mail: info@zenbunka.or.jp https://www.zenbunka.or.jp

○大光明寺「出町妙音弁財天」春季法要・巳の日法要

大光明寺（矢野謙堂住職）では、飛び地境内の出町妙音堂において「出町弁財天春季法要」を四月二十二日に、「第十回巳の日法要」を、五月四日に執り行った。

本年も、一昨年、昨年と同様コロナウイルス感染症対策の為、無参拝法要とした。

当日は、一部の奉賛会員と、居合わせた参拝客らが住職の加護を受けた。

弁財尊天御真言「おん　そらそば　ていえい　そわか」

参拝者への加持

○眞如寺「半僧坊大権現」御開帳

五月八日、眞如寺（江上正道住職）では、長引くコロナ禍中、一昨年、昨年に引き続きウイルス感染を防ぐために一般参拝を受け入れずに、鎮守「半僧坊大権現」の御開帳諷経を行った。当日は好天で境内のカキツバタも見事に咲き揃っていただけに、来年の参拝再開が期待される。

半僧坊大権現御真言「おん　なんのうちりちり　そわか」

法要に合わせて咲き揃ったカキツバタ



## 第二教区

○教区総会

第二教区支部総会出席僧侶

四月二十三日、竹林寺（京都市左京区上高野・牛江宗道住職）に於て、今年度の定期教区総会が、十一名の参加を得て開催された。コロナ禍中の生活も三年目となり、状況にも落ち着きが見られるのを受けて、総会開催となった。

当日は、抹茶茶礼の後、本堂にて本尊並びに開山諷経を厳修した。

総会では、支所長から前年度の事業報告があり、また、今年度の二教区相国会支部総会が福性寺（亀岡市）で開催される予定であることなども報告された。

## 第三教区

○令和三年土砂崩れによる「南苑寺（なんえんじ）」倒壊の現状報告

令和三年七月に鳥取県倉吉市を襲った豪雨により、昭和二年に橋本独山師により建てら

れた南菀寺（鳥取県三朝町・澤宗泰兼務住職）は本堂と隠寮が土砂により崩壊しました。南菀寺は山の斜面に建てられており、がれきは斜面を覆い撤去をすることが難航しました。この間も豪雪のために南菀寺の木が何本も倒れ、撤去するなど、自然災害に見舞われています。地元の建設会社に依頼して、がれきは手作業で少しずつ搬出し、倒木の処理もお願いしました。この度約一年の歳月をかけて、撤去については工事が完了しました。倉吉市、鳥取県により発端となった山ののり面の工事も行われています。

しかしながら、三分の二が残る南菀寺の建物についてはそのままです。今回現地調査したところ、本堂の屋根がさらに歪んでおり、今後も崩落する危険があります。今回無事にがれきの撤去は完了しましたが、今後も残りの建物をどうするのか課題は残ったままです。引き続き本山と行政と相談しながら対応を検討していきます。

工事の模様
（左は林光院澤宗秀副住職）

隠寮がれき撤去完了



## 第四教区

○宗務支所　支所会

十一月八日、真乗寺に於いて開催。来年度巡教、今後の予定について検討した。

○若狭相国会　役員会

二月七日、真乗寺に於いて開催。今後の行事について検討した。

○壽奎寺（じゅけいじ）津送

二月二十七日、壽奎寺（高浜町小黒飯・中川秀峰兼務住職）に於いて、滝野宗育閑栖和尚の津送を厳修。法類寺院・檀信徒多数出席される。

○西林寺斎会

三月十三日、西林寺（高浜町山中・中川秀峰住職）に於いて、先代住職の仙国梅渓和尚の十七回忌法要を厳修し、法類寺院が出頭した。

○若狭相国会　役員会

四月四日、真乗寺に於いて開催。令和三年度会計監査・令和四年度若狭相国会総会について協議した。

○宗務支所　支所会

四月十二日、真乗寺に於いて開催。定期宗議会報告・令和三年度教区会計報告を行った。

○南陽寺先代住職寺庭逝去

四月二十四日、南陽寺（高浜町宮崎・加藤幹人住職）先代住職（故桂寛洲師）寺庭の桂綾子氏の葬儀を法類寺院で執り行った。

○若狭相国会総会

五月十九日、元興寺（高浜町三明・本田真人兼務住職）に於いて開催した。

○善應寺晋山式

五月二十六日、妙心寺派管長玄々庵老大師御臨席のもと、前住職五十嵐祖傳和尚退山式並びに新命真吾和尚晋山式を挙行される。鈴木庶務部長より辞令伝達された。近隣、縁故寺院、檀信徒多数参列した。

（巻末カラー91ページ参照）

## 第五教区

○出雲相国会三役会

・令和三年十二月三日、富田寺で開催。

令和三年度末から令和四年度に至る事業について協議をする。協議終了後、十一月より配信する「出雲相国会ホームページ」に載せる「出雲相国会三役による新年のあいさつ」を撮影する。この撮影動画の編集を大晦日に行うが、データを消去してしまい残った未使用部分の動画を使って配信を試みる。

・令和四年二月十九日、富田寺で開催。

令和三年度・令和四年度の事業と会計を中心に協議をする。令和四年度事業については、令和三年度事業を参考に検討し、これを踏まえて、令和四年度の予算や今後の会合の日程についても話し合いをする。

○令和三年度雲州一派第二回住職会

令和四年一月三日、富田寺において開催。臨黄布教団本部より届く令和四年三月の布教師の派遣資料を中心に協議する。この会議の中で、出雲相国寺派各寺院住職に、昨年より配信する「出雲相国会ホームページ」等の更新に使う資料提供をお願いする。

出雲相国会ホームページ

https://home1.tigers-net.com/izumo_shokoku-11/

第五教区住職会

○令和四年雲州一派年始会

令和四年一月三日、第二回住職会終了後に一派年始会を開催。

年始会参加者は、昨年同様に雲州一派寺院、出雲相国会三役並びに富田寺護持会三役で行う。先ず書院で新年の挨拶を交わした後、本堂に移り初月忌の御参りをする。

正月初月忌

正月の礼

○出雲相国会・富田寺護持会合同三役会

令和四年一月三日、雲州一派年始会終了後に富田寺で開催。

昨年十二月の出雲相国会三役会で話し合った令和三年度末から令和四年度に至る事業を中心に協議する。これを踏まえて、富田寺護持会三役の意見を伺い、第二回出雲相国会理事会に向けての資料を作成する。

○出雲相国会理事会（令和三年度第二回）

令和三年三月十日、富田寺にて開催。

この理事会で先ず令和三年度事業と会計の報告をし、理事皆様の了承を得る。次に令和四年度の事業と予算について協議する。先に行う三役会でまとめた資料をもとに議論をし、事業に関してコロナウイルス感染状況を見極める為、もう暫く通常の事業は休止し、令和四年度総会は書面決議で行うこととなる。又、雲州一派開山忌・出雲相国会だより発刊は通常通り行う事となる。

○彼岸會布教について

令和四年三月の布教は、昨年同様に布教師は第五十六教区臨黄布教団の会長（南禅寺派）長源寺、岸本惠親師にお願いし開催する。今年は二ヶ寺で布教を行う。

布教師による春の巡教



○令和四年度第一回出雲相国会総会

令和三年度第二回出雲相国会理事会を受けて令和四年度総会は書面決議で行う。この書面決議の結果、令和三年度事業・会計と令和四年度事業・予算が承認される。

## 第六教区

○光明寺斎会

十一月二十一日、光明寺（鹿児島市草牟田・松本昭憲住職）に於いて、先住憲融和尚並びに先代寺庭松本みすず様の一周忌法要が、合斎会により営まれた。

松本昭憲和尚導師のもと、縁故寺院並びに教区寺院出頭のもと、親族、檀家総代、檀信徒が見守る中、厳修された。

コロナ禍にも関わらず、たくさんの檀信徒の方々が訪れ、憲融和尚の遺徳を偲んだ。

光明寺合斎会法要の模様

○第六教区住職会

四月二十四日、霧島観光ホテルに於いて、教区住職会が三年ぶりに開催された。

令和三年度の定期宗会での議事報告の後、意見交換が行われた。

第六教区は各寺院が鹿児島、宮崎と離れており、顔を合わせることも少ないため、良い親睦を深める機会となった。

合斎会で読経中の住職ほか僧侶

## 令和四年度（雨安居）相国僧堂 在錫者名簿

京都（相国）大通院徒　尾崎宗忍

東京（建長）東禅寺徒　滝本駿太



# 教化活動委員会活動報告

教化活動委員会委員長　佐分宗順

## 研修会

**【現代問題研究】**

宗教と社会研究実践センターとの共同研究

令和四年度のテーマ　「宗教法人非課税の根拠」

第一回　五月十七日（火）　講師　櫻井圓郎氏

「境内建物・境内地に対する固定資産税の賦課問題」終了

第二回　九月十日（土）予定　講師　田中治氏

「宗教法人非課税の根拠」

第三回　十一月頃予定　講師　洗建氏

「世論の宗教法人優遇税制について」

講演録の出版を予定しています。

## 【相国寺研究】

二〇二二年度は、藤田和敏研究員による研修会を左記の内容にて開催する予定です。

### テーマ「樋口琢堂と和敬学園―大正～昭和戦前期仏教社会事業の実態」

講師　藤田和敏氏

二〇二二年十一月開催予定

第一回　樋口琢堂と「一日一善」

第二回　京都仏教護国団の発足と改組

第三回　和敬学園の創設と樋口琢堂の奮闘

第四回　戦時体制への移行と和敬学園

相国寺塔頭慈雲庵の境内地に隣接する児童養護施設和敬学園は、大正十三年（一九二四）に慈雲庵住職であった樋口琢堂によって創設されました。琢堂は、慈照寺（銀閣寺）の徒弟時代に大正天皇と出会ったことが契機となって「一日一善」活動を展開し、運動の機関紙『衆善』を刊行します。さらに琢堂は、和敬学園の園長として少年保護へ乗り出し、多くの少年を立ち直らせました。今回の研修会では、琢堂の足跡を通じて、伝統仏教教団による社会事業の特質について考察します。



## 出版

昨年度、京都仏教会「宗教と社会研究実践センター」と共同で開催しました三つの研究会について、講演録を出版しました。

### 『監視社会と宗教活動―キャッシュレス社会のデジタル化の中で―』

相国寺教化活動委員会

一般財団法人京都仏教会「宗教と社会研究実践センター」　共同編集

二〇二二年三月二十九日発行

目次

一、中国の宗教法令と信教の自由

講師：櫻井圀郎　氏

（宗教法および宗教経営研究所所長教授・宗教と社会研究実践センター副所長）

令和三年六月五日（土）　於　相国寺承天閣講堂

二、コロナ禍における国家と文化―中国の事例より―

講師：梶谷懐氏（神戸大学大学院経済学研究科教授）

令和三年八月二十九日（日）　於　相国寺承天閣講堂

三、拡大・深化する監視社会と宗教―D・ライアン『監視社会』をベースとして

講師：田中滋氏（龍谷大学名誉教授・宗教と社会研究実践センター主任研究員）

令和三年十二月十一日（土）　於　相国寺承天閣講堂

◆出版物刊行予定

『相国寺史』第二巻　史料編中世二

相国寺史編纂委員会編　原田正俊・伊藤真昭監修

発行：法藏館　定価：九〇〇〇円＋税

内容：応仁元年（一四六七）～永禄十年（一五六七）の史料を編年体にまとめて掲載。

相国寺研究

『室町時代の相国寺領荘園』　中井裕子氏著

内容：二〇一六年および二〇二一年に行われた計四回の講座を講義録とする予定です。

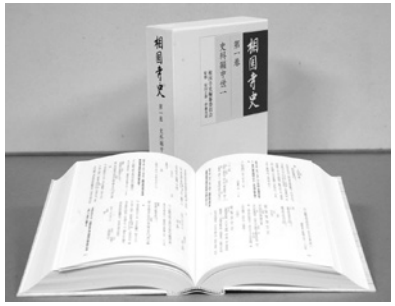
【出版物のご紹介】

『相国寺史』

第一巻　相国寺史編纂委員会 編

株式会社法藏館　二〇一九年三月三十一日発行

『相国寺史』をお求めの際は、お近くの書店もしくは法藏館へお問い合わせください。





●教化活動研修会　『講義録』・『相国寺研究』（近年発行のバックナンバー）

相国寺研究九

『慈照寺と無雙真古流』　井上　治　著

相国寺教化活動委員会　二〇一八年九月十五日発行

相国寺研究十一

『明治期の臨済宗―宗政家と教団運営―』　藤田　和敏　著

相国寺教化活動委員会　二〇二一年二月二十二日発行

過去に発行した各講座および研修会の『講義録』をご希望の方は、一冊につき手数料一千円を添え、左記の相国寺派宗務本所内教化活動委員会宛にお申し込みください。

各講座の参加申し込みや既刊の『講義録』リストは、相国寺派ホームページの「資料室」・「書籍案内」をご覧ください。

◆申込先　相国寺教化活動委員会

〒六〇二―〇八九八　京都市上京区今出川通烏丸東入相国寺門前町七〇一

電話　〇七五―二三一―〇三〇一　ＦＡＸ〇七五―二二一―三五九一

ホームページ（https://www.shokoku-ji.jp）

# 相国寺史編纂室だより ―室町幕府十代将軍足利義稙の弟たち―

現在、編纂室では『相国寺史』第二巻 史料編中世二の出版に向けて、大詰めの段階に入っています。第二巻には、応仁元年（一四六七）から永禄十年（一五六七）までの相国寺やその関係寺院に関わる史料を、編年で収録しています。今回はそのなかから、室町幕府十代将軍足利義稙の兄弟にまつわる話を紹介します。

延徳二年（一四九〇）正月七日、室町幕府八代将軍である足利義政が亡くなりました。このとき、義政には将軍を継承できる子息がいなかったため、義政の弟足利義視の子である義稙が将軍になりました（義稙は義材→義尹→義稙と名前を変えますが、ここでは義稙に統一しておきます）。

足利氏系図

- 政知
  - 義澄
  - 義政
    - 義尚
    - 義視
      - 義稙
      - 維山周嘉
      - 耀山周台（了玄）
      - 祝渓聖寿尼

足利義政は慈照寺の前身である東山殿（東山山荘）を造営したことで有名ですが、義政は生前に「自分が死んだら東山殿を寺に改めて、足利義視の息子一人を養子として付属させるように」と遺言していました（『蔭涼軒日録』延徳二年正月七日条）。その遺言にそって、同年七月四日に義稙の弟が慈照寺に喝食として入室し、維山周嘉という名が与えられました。『蔭涼軒日録』によると、このとき維山は十六歳で、慈照寺住持の宝処周在が後見役を務めました。

義稙には他にも弟がおり、その弟を鹿苑寺の喝食としたらどうかという話が持ち上がりました。しかし鹿苑寺は財政難のため、喝食を置く余裕がありません。そこで延徳三年四月二十一日、相国寺の塔頭である大智院に入室しました。この弟は十四歳で耀山周台といいます（『蔭涼軒日録』）。

ところが同年、醍醐寺三宝院の門主が追放され、三宝院側がその次の門主に義稙の弟を望みました（『大乗院寺社雑事記』延徳三年八月十二日条）。将軍義稙は大智院喝食であった耀山周台を三宝院に入れることを承諾し、延徳四年六月二十七日に耀山が三宝院の新門主となり、名を了玄と改めました（『蔭涼軒日録』）。

このように寺院社会で生きていた兄弟ですが、室町幕府管領細川政元が仕掛けたクーデターに突然巻き込まれました。明応二年（一四九三）二月十五日、足利義稙が河内国の大名である畠山基家を討伐するため、諸大名を率いて河内国に出陣しました。その留守を狙い、細川政元が四月二十三日に京都で兵を挙げ、義稙の関係者を次々に襲いました。そして政元は将軍義稙を廃位し、嵯峨香厳院の喝食であった旭山清晃を新将軍に擁立しました。清晃は足利義政の兄政知の子で、室町幕府十一代将軍足利義澄となる人物です。

このとき、三宝院門主の了玄は河内国の義稙の陣にいたため難を逃れましたが、三宝院（このときは現在の京都御所の位置にありました）は破壊され、焼き払われてしまいました。義稙の妹である祝渓聖寿尼がいた曇華院も壊滅し、祝渓は身一つで落ちのびました。

その後、軍勢は維山がいる慈照寺を狙って乱入しましたが、政元に協力していた伊勢貞宗が止めたため、奇跡的に慈照寺は無事に済みました（『蔭涼軒日録』・『晴富宿禰記』）。政変があったとき、将軍の近親者は命の危機にさらされますが、将軍と関係が深い寺院も被害を受けることが多かったのです。

（相国寺史編纂室研究員　中井裕子）

大本山相国寺御用達

御法衣・仏具

## (株)後藤利法衣店

〒604-8273 京都市中京区西洞院通三条上ル
電話（075）221-4587
FAX（075）223-0094
フリーダイヤル（0120）014587

大本山相国寺御用達

社寺建築 **(株)北村誠工務店**

〒603-8225
京都市北区紫野南船岡東町45
電話京都（075）441-0563
FAX京都（075）441-0571

文化財堂宇修復保存　**大本山相国寺御用達**

社寺建築
数寄屋建築　設計・施工

**澤甚株式会社 澤野工務店**

SAWANO

本　社
〒605-0069 京都市東山区東大路通知恩院前上ル2筋目東入
TEL(075)561-5394(代) FAX(075)533-3775
山科事務所・工房
〒607-8126 京都市山科区大塚元屋敷町62 TEL(075)541-1257(F)

大本山相国寺御用達

庭園　設計・施工

## 樋口造園株式会社

〒602-8341 京・上京区七本松通中立売下ル三軒町77
電話（075）462-1385
FAX（075）464-6120

天和三年創業　**大本山相国寺御用達**

## 簾 安田念珠店

〒604-8072
京都市中京区寺町六角角
TEL（075）221-3735
https://ssl.yasuda-nenju.com/

大本山相国寺御用達

精進料理

## 矢尾治

〒600-8486 京都市下京区高辻堀川町358
電話（075）841-2144
FAX（075）841-2110
http://kyoto-shoujinryouri-yaoji.homepage.jp

夢のある空間づくりのパートナー

トータルディスプレイ 企画・設計・施工・管理
TOTAL DISPLAY
FUSHIMI KOHGEI
株式会社 伏見工芸

［本　社］〒612-8009 京都市伏見区桃山町見附町11番地
TEL 075-621-2833 FAX 075-611-5465
［宇治工場］〒611-0041 京都府宇治市槇島町吹前15番地
TEL 0774-23-9255 FAX 0774-23-9254
e-mail:fushimi_@d1.dion.ne.jp

貴重な御法衣の御用は
大本山相国寺御用達

## 後藤新助法衣仏具店

〒616-8041 京都市右京区花園寺ノ前町30番地
電話(代表)（075)462-3915番
ファクシミリ（075)462-3616番
URL https://www.rinzai.jp
E-mail : rinzai@rmail.plala.or.jp



*Future Active Advance*

## officeやまと

パソコンからネットワーク・サーバ構築まで
IT環境のトータルアドバイザ

本　社 〒604-8842 京都市中京区壬生土居ノ内町19-13
TEL：075-311-9000　FAX：075-311-9494
中央支社 〒615-0846 京都市右京区西京極徳大寺団子田町29-62
TEL：075-322-0110　FAX：075-322-0770
E-Mail：info@office-yamato.net

創業明暦年間

登録商標 **七味家**

〒605-0862　京都市東山区清水二丁目221
TEL(075)551-0738／FAX(075)531-9352
0120-540738（ゴヨウハシチミヤ）
9:00～18:00(冬季は9:00～17:00)
https://www.shichimiya.co.jp/

こころをつたえる

和文具 和雑貨

株式会社 **表現社**

〒602-0861
京都市上京区新烏丸通り荒神口南入る
TEL:075-222-1345／FAX:075-222-1354
https://hyogensha.net/

三楽税理士法人

代表税理士 奥谷昌雄
代表税理士 内藤　誠

〒602-8026
京都市上京区新町通椹木町上る春帯町340番地
TEL(075)256-2551　FAX(075)255-7461

式典写真、風景写真など
あらゆるニーズにおこたえします！

## 柴田明蘭 写真事務所

（公益社団法人）JPS 日本写真家協会 会員
☎090-8387-7735
FAX 075-311-9369
〒615-0057
京都市右京区西院東貝川町24 シェルブリュー四条603

TDS

寺社の電気、空調、防犯、防災設備

有限会社 **土橋電気設備**

〒606-0953 京都市左京区松ヶ崎海尻町4番地4
まちゃまちゃ 105号
TEL 075-703-6331　FAX 075-703-6332

雅料 温故知新を織る…

株式会社 **龍村美術織物**

URL:https://www.tatsumura.co.jp/
関西店　〒615-0022　京都市右京区西院平町25
ライフプラザ西大路四条2階
TEL (075)325-5580　FAX (075)325-5606
関東店　〒104-0031　東京都中央区京橋2－8－1
八重洲中央ビル5階
TEL (03)3562-1212　FAX (03)3562-1230

**お越しいただくあの方の為に**
**あなたの想いの一番近くに**

イベント設営・レンタルの京老舗
有限会社 **テラヲ貸物店**（てらおかしものてん）
075-414-1464
office@terao-rental.com
https://www.terao-rental.com

広く
深く
つなぐ

創刊明治30年 宗教専門紙

中外日報

https://www.chugainippoh.co.jp

購読・試読サービスのお申し込みは

0120-015-177

京都本社 〒601-8004 京都市南区東九条東山王町9 TEL.075-671-4800
東京支社 〒113-0033 東京都文京区本郷4-9-13 TEL.03-3816-4721

JTB 感動のそばに、いつも。

JTB京都中央支店 TEL. 075-284-0173

〒600-8421 京都市下京区綾小路通烏丸西入童侍者町 167 AYA四条烏丸ビル 2F
営業時間 9:30～17:30／土・日・祝日・年末年始休業

大本山相国寺御用達
寺社庭園・町屋庭園・露地庭
作庭 管理
植昭 長岡造園
〒616-8305 京都市右京区嵯峨広沢御所ノ内町13-3
電話(075)872-0005 FAX(075)872-0004
HP:nagaokazouen-kyoto.com

大本山相国寺御用達
京仏具・仏壇
株式会社 佛光堂
〒600-8033
京都市下京区寺町通仏光寺下る
(四条寺町、南へ200M、西側)
TEL(075)351-4092 FAX(075)351-7231

大本山相国寺御用達
京都市指定
有限会社 丸水設備工業
●上下水道衛生設備 ●ポーリング井戸 ●消火栓設備
●庭園池の濾過設備 ●お墓の雨水処理 ●設計施工
〒603-8354 京都市北区等持院西町32
TEL(075)462-8888(代) FAX(075)462-8998

受け継がれるご奉仕の心を大切に
土産品 記念品 オリジナル商品をお創りします
ACT MIYAKO 株式会社 アクトみやこ
〒615-8083 京都市西京区桂艮町15-24
TEL.075-634-5084 FAX.075-634-5085
E-mail:taichi-matsuo@actmiyako.co.jp

京名物 夷川五色豆
京銘菓 月しろ
創業明治17年
京都 夷川
豆政
京都市中京区夷川通柳馬場西入六丁目264
TEL 075-211-5211 FAX 075-211-4520

大本山相国寺御用達
深草瓦師 寺本甚兵衛
(株)寺本甚兵衛製瓦
〒612-0873 京都市伏見区深草瓦町 20
電話（０７５）６４１－０２８７
FAX（０７５）６４１－９７７１

京菓子司
千本玉寿軒
〒602-8474
TEL:075-461-0796 FAX:075-464-6717
京都市上京区千本通今出川上ル上善寺町 96
http://sentama.co.jp/

ブライトホール
家族葬専用 別邸
公益社
0120-004-200
24時間365日対応 無料相談

www.shoyeido.co.jp

香

大本山相国寺御用達

香老舗 松榮堂

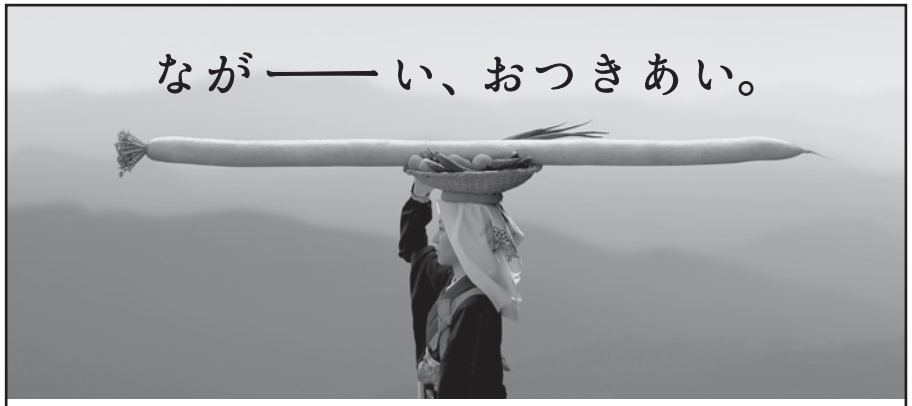
京都本社／京都市中京区烏丸通二条上ル東側 TEL 075-212-5590 FAX 075-212-5595
東京支店／東京都中央区日本橋人形町 2-12-2 TEL 03-3664-2307 FAX 03-3639-4969
札幌支店／札幌市中央区南８条西 12 丁目 3-6 TEL 011-561-2307 FAX 011-563-3502

京都本店　産寧坂店　京都駅 薫々　嵐山香郷　大阪本町店　銀座店　人形町店　横浜店　札幌店

YPG
YOSHIDA PRINTING GROUP

ヨシダ印刷株式会社
株式会社ヨシダ洋紙
ワイピービズインプルーブ株式会社

ながーーい、おつきあい。



貯める、運用する、借り入れる、積み立てる、備える、管理する･･･
京都銀行は、人生のさまざまなシーンで皆様を応援します。お気軽にご相談ください。

飾らない銀行
京都銀行

ANA CROWNE PLAZA KYOTO

世界の歴史都市、
京都の中央に位置し、
世界文化遺産「二条城」の前に佇む
ANA クラウンプラザホテル京都。

ANAクラウンプラザホテル京都
〒604-0055 京都市中京区堀川通二条城前
Tel 075-231-1155
www.anacpkyoto.com

御法衣・御袈裟・御水引・戸帳・打敷

華蔓・御晋山式用品一式・稚児装束

大本山 相国寺御用達

# 橘兵　草木兵助商店

〒604-0024　京都市中京区衣ノ棚通御池上ル西側
電話（075）221-0934番　振替京都01090-4-3476

大切な文化財を始め、建物の安全と安心の為努力しています

電気設備工事・消防設備工事

# ADACHI 足立電気工業株式会社

〒601-8045
京都市南区東九条西明田町34-21
TEL 075-681-4461　FAX 075-681-9767
E-mail：adachi-d@guitar.ocn.ne.jp



# 抹茶

全国並びに関西茶品評会第一位
自園茶 農林水産大臣賞31回受賞

有馬頼底管長御好

御濃茶　萬年乃翠（まんねんのみどり）

御薄茶　常光（じょうこう）

大本山相国寺御用達

宇治 久 小山園

京都府宇治市小倉町寺内八六番地
お問い合せ（〇七七四）二〇・〇九〇九
●西洞院店　茶房「元庵」水曜休祝営業
京都市中京区西洞院通御池下ル
電話（〇七五）二二三・〇九〇九
●ジェイアール京都伊勢丹店 地下一階
●京都高島屋店 地下一階 和菓子売場
▌お取り扱い▌全国有名茶店・茶道具店
www.marukyu-koyamaen.co.jp



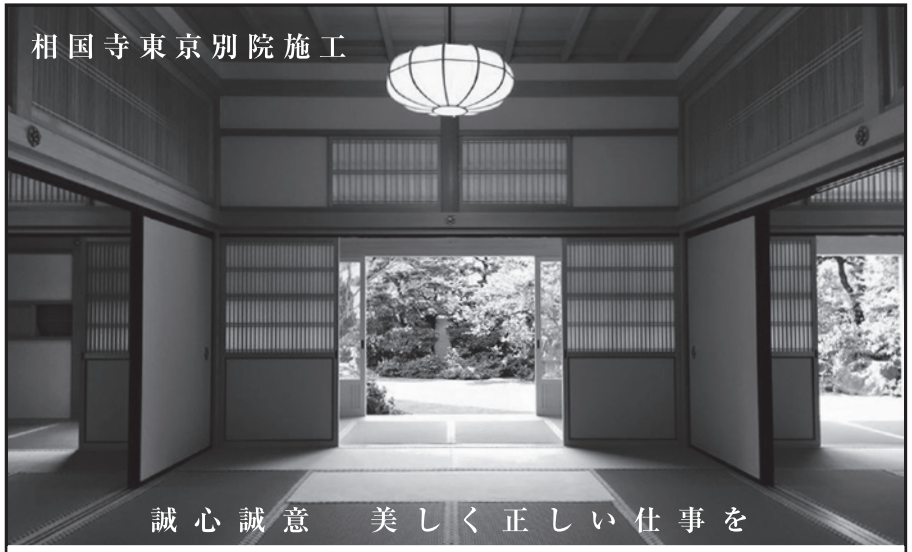
大本山相国寺御用達・大涅槃図保存修理

文化財保存修理・文化財デジタル複製・文化財 IPM 調査・文化財調査
一般表具・絵画企画製作・漆 / 金箔施工工事・襖紙 / 御殿引き手発売元

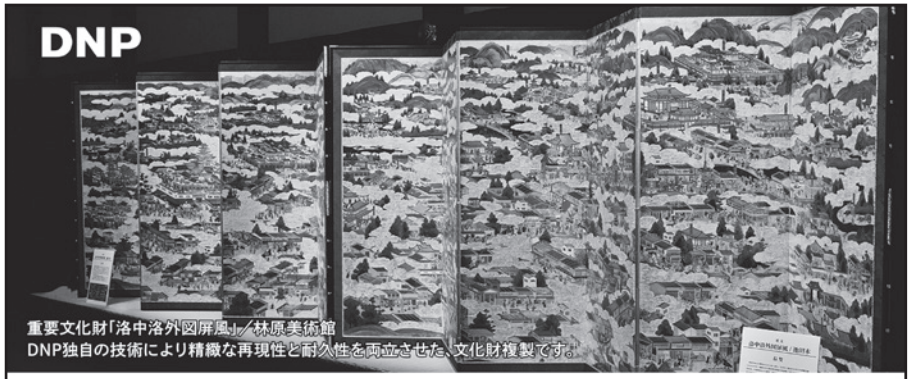
京表具　浩悦庵（こうえつあん）

古文化財保存修理研究所　（有）矢口浩悦庵

本社・工房
〒602-8025 京都市上京区衣棚通り丸太町上る今薬屋町 318 番地
TEL(075)254-6021（代）/FAX(075)254-6022
www.koetsuan.com 東京営業所 Tel(042)442-0177




株式会社 水澤工務店
東京都江東区木場５丁目６番地１号
TEL 03-3641-7111
URL www.mizusawa-inc.co.jp




歴史を未来につなぐ技術。

私たちは、これまで培ってきた印刷技術と情報技術を生かし、
かけがえのない文化遺産の保存と継承に貢献しています。

DNPenguin

未来のあたりまえをつくる。　大日本印刷株式会社

皆さまのお役に立てる、
コインパーキング。

着実に、一歩一歩。

キョウテク株式会社

本社
TEL 075-365-8000　FAX 075-365-8080
〒600-8172　京都市下京区下平野町483番地1

相国寺御用達　北山金閣寺御用達　東山銀閣寺御用達

五紋

享保十一年創業　清酒「五紋神蔵」醸造元
松井酒造株式會社
京都市左京区吉田河原町１の６　電話 075（771）0246

MIZUHO

One MIZUHO

お客さまから最も信頼される、
そして選ばれる証券会社へ

私たちは、〈みずほ〉が目指す、
「総合金融コンサルティンググループ」の唯一の総合証券会社として、
金融に関する高い専門性や質の高い商品力に磨きをかけることで、
お客さまに最良のサービスを提供できるよう、
全力で取り組んでまいります。

みずほ証券

京都支店 Tel.075-231-8881
〒600-8006 京都市下京区四条通柳馬場西入立売中之町99

One MIZUHO 未来へ。お客さまとともに

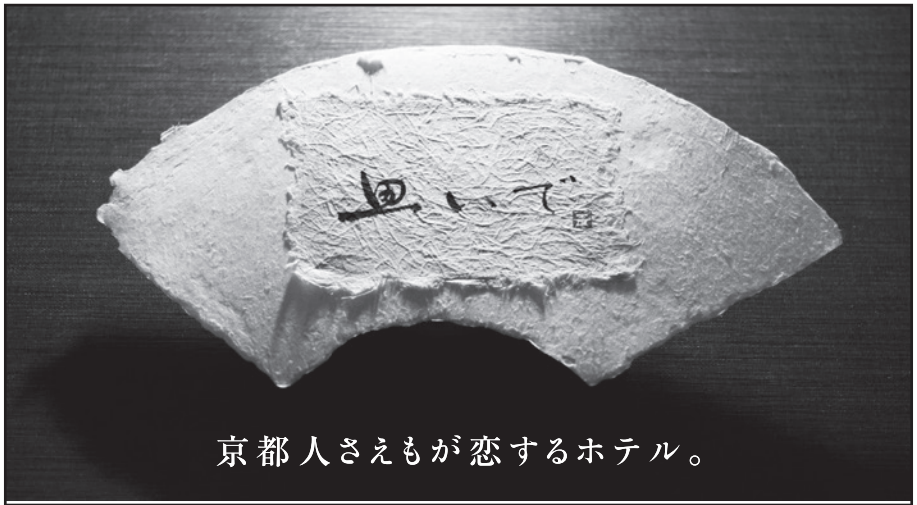
株式会社 竹中工務店

建物の総合管理（警備・清掃・設備・植栽）

抗菌・抗ウイルスの効果が持続する薬剤
KYOHPARA Alivio
販売をいたしております。

SARS-CoV-2（新型コロナウイルス）を対象とした
反応検査で不活性化を確認できました。

都総合管理株式会社
京都市上京区堀川通中立売上ル福大明神町119番地の1
TEL：075-415-0001　FAX：075-415-1155

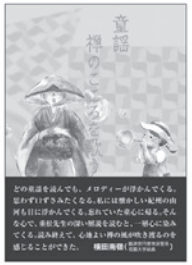



BRIGHTON KYOTO
〒602-8071京都市上京区新町通中立売（御所西）
TEL.075-441-4411（代）　FAX.075-431-2360
https://kyoto.brightonhotels.co.jp/

# 禅のことをもっと……

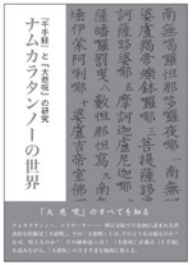
あなたが信仰されている臨済宗・黄檗宗の教理や歴史について、もっと知りたくありませんか？　禅文化研究所では入門書から専門書まで幅広く発行いたしております。

## おすすめ本のご紹介



童謡
禅のこころを歌う
定価 1,430 円

維摩経
ファンタジー
定価 1,430 円



ナムカラタンノーの世界
定価 4,180 円

季刊『禅文化』
年間購読料
5,280 円

書店やネットでも購入できます。価格はいずれも税込みです。

お申し込み、お問い合わせは下記まで

公益財団法人　禅文化研究所
〒604-8456 京都市中京区西ノ京壺ノ内町 8-1 花園大学内
TEL 075-811-5189　FAX 075-811-1432
E-mail: info@zenbunka.or.jp　https://www.zenbunka.or.jp




## ● 編集後記 ●

◇相国会会員、本派各ご寺院、また関係各位の皆様、暑中お見舞い申し上げます。新年早々、感染力の高いオミクロン株のまん延による対応に迫られることになりました。状況はその後も変化を続けており、その対応にご苦労の事と存じます。またロシアによるウクライナ侵攻が勃発、アジア諸国を含め世情の不安定さが増しており、あらためて仏教国に生きる者として「菩提心を発する」ことが大切であると考えます。「衆生は本来仏なり」であります。

◇第118号（夏号）の発刊です。本派の住職二名による「円明法話」、慈照寺の作庭レポートをはじめ各連載原稿、写真、広告等をご提供いただきました皆様に御礼申し上げます。

◇平成18年より16年にわたり相国会会長職をお引き受け頂きました片岡匡三氏より退任のお申し出がありました。相国会本部の運営はもとより、本誌御挨拶文等でも青年時代に相国寺専門道場で生活されました体験や、氏の長きにわたる教員としての経験等を交えた数々の貴重なお言葉を教示いただきましたことを、ここに改めて感謝申し上げます。

◇続いて、去る５月23日には３年ぶりに相国会本部役員会を開催しました。初の試みとして第五、第六教区理事様と顧問和尚様にはオンラインでご参加いただき、また新会長には相国寺総代の松井八束穂氏をお迎えしました。秋の本部研修会については、今年も中止することになりましたが、今後とも各教区、各相国会分会の皆様、引き続き本部ならびに研修会等諸行事の運営にご協力を頂きますよう宜しくお願い申し上げます。

◇長年相国寺一山用達をいただいた精進料理店の上幸（うえこう）様が閉店されました。開山忌や研修会等で料理を食した皆様もおられると思います。本誌にも昭和50年代半ばより長く禅寺と精進料理、食材と調理方法にまつわる話を度々ご寄稿賜りました。この場を借りて感謝を申し上げると共に、上田氏の許可を得て過去の掲載記事より二編を再録させていただきました。

◇各地のお寺の門前にある掲示板をご覧になる方も多いのではないでしょうか。昨年の「輝け！お寺の掲示板大賞」の入賞作品の中に、「私の中には仏がいる」という言葉がありました。確かに『私』という字の中には『仏』という字が入っています。仏さまはどこか遠くにおられるのではなく、「自分自身の中に備わっており、その仏心に目覚めよ」という仏教の真理をさしていると思います。そう言えば、「しばらくは　離れて暮らす　『コ』と『ロ』と『ナ』　つぎ逢ふ時は　『君』といふ字に」という短歌もひと頃話題になりました。みんなの中の仏心をマスクで閉ざすことなく、連日酷暑ではありますがお盆やお彼岸にご先祖様をお迎えいたしましょう。引き続き、ご自愛ください。

（江上正道　記）


円明（えんみょう）
令和４年（2022）夏号（第118号）
令和４年（2022）8月1日発行（年２回）

編　集／相国寺派宗務本所　教学部
発行所／大本山相国寺・相国会本部
〒602-0898 京都市上京区今出川通烏丸東入相国寺門前町701　TEL075-231-0301　FAX075-212-3591
URL　https://www.shokoku-ji.jp　　E-mail　kyogaku@shokoku-ji.jp（教学部）
制作・印刷／ヨシダ印刷株式会社　　カット／BUN

『円明』誌は、環境にやさしい「水なし印刷」「Non-VOCインキ」で印刷しています。

# 相国寺 秋の特別拝観

**令和4年9月17日(土)～12月11日(日)** 拝観時間：午前10時～午後4時

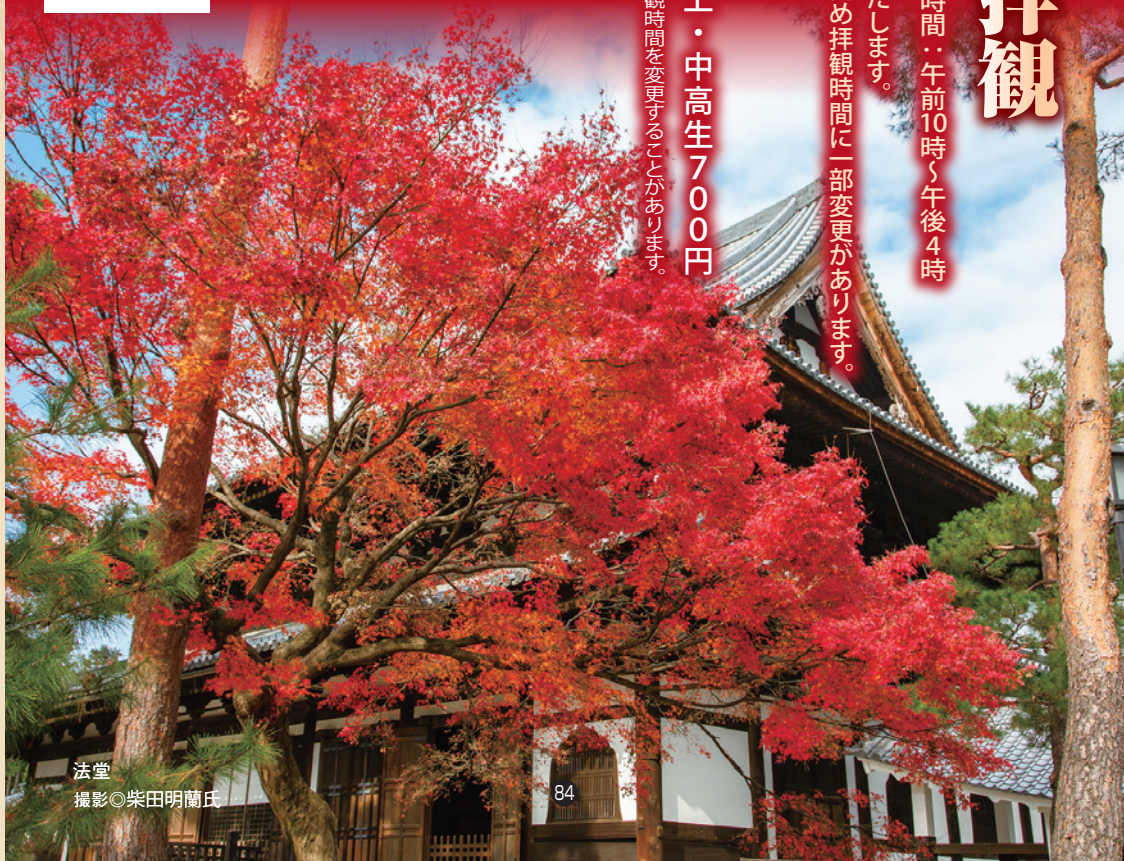
※10月18日(火)～21日(金)は、開山忌法要のため拝観を休止いたします。
※10月3日(月)、4日(火)、5日(水)、12月8日(木)は法要・行事のため拝観時間に一部変更があります。

**拝観場所：法堂・方丈・開山堂**

**拝観料：一般・大学生 800円／65才以上・中高生700円**

※団体割引有り ※法要・行事のため、予告なく拝観休止または拝観場所・拝観時間を変更することがあります。

法堂内「蟠龍図」



法堂
撮影◎柴田明蘭氏



## 本山拝観売店より

特別拝観限定御朱印「蟠龍」

拝観売店では、春・秋の特別拝観に合わせ、ご拝観の方へ御朱印、お守りの授与、拝観記念品の販売を行っています。

春の特別拝観より、限定御朱印「蟠龍」、御守 壽―いのちながし―、ストラップお守り、クリスタルマグネット「蟠龍」「芭蕉小狗子図」の授与、販売を始めました。

特別拝観へお越しの際はお立ち寄りください。

御守 壽―いのちながし―

クリスタルマグネット

ストラップお守り

◆お問い合わせは
相国寺派宗務本所教学部
（〇七五―二三一―〇三〇一）まで

北山だより

# 「金閣寺公式インスタグラム」の開設について

鹿苑寺では、より多くの方々に当寺の魅力や情報をお届けするために、新たな試みとして「金閣寺公式インスタグラム」を開設し、二〇二一年十月十一日からスタートし、好評を得ております。

インスタグラムの中では、お馴染みの「金閣・舎利殿」のほかに境内にある様々な名所や一年の間に執り行われる伝統行事等の、まだまだ知られていない観光スポットではない「本来のお寺」としての興味深い情報なども掲載しております。合わせまして、時節に応じた御守りなどもご紹介しております。

鹿苑寺公式インスタグラム

また、「金閣・舎利殿」を取り巻く自然の中で境内に訪れる動物や、季節によって色々と変化していく植物の情報も適時お伝えしております。

現在、フォロワー数は一、七〇〇人を超えたところで、まだまだ発展途上であります。今後も一人でも多くの方に来山していただけますように、より魅力的な話題を絶えず発信して参りたいと思います。

なお、本ページにございますインスタグラムの画像群の中にQRコードを入れております。それをご自身の携帯電話で読み取っていただきますと「金閣寺公式インスタグラム」に移動し、ご覧いただくことができます。この機会にフォロワーになっていただければ幸いです。



東山だより

# 慈照寺開山毎歳忌並びに開基慈照院殿毎歳忌 無事円成

慈照寺では、五月二十一日に開山夢窓國師並びに開基慈照院殿毎歳忌を執り行いました。昨年と同様、本年も新型コロナウイルス感染症収束の見通しが未だ立たない中、澤宗泰執事長の導師のもと、塔頭寺院への拝請は控えさせていただき、法類様方のみのご出頭・ご加担で粛々と挙行いたしました。当日は、総代様をはじめ銀閣寺門前関係の一部の方のみのご案内にとどめ、十分に感染対策を施した上での法要開催に努めました。

開山夢窓國師像

諷経する一同

本堂外観

明け方の驟雨も止み、そのお蔭で、境内の草木や苔のすべてを美しく洗い流し、滴り落ちる雨粒は初夏の青葉を瑞々しく、より一層艶やかに見せていました。

雨上がりの心地よい薫風のもと、ご案内の皆さまにご参詣いただき、無事法要円成いたしました。

# 「王朝文化への憧れ—雅の系譜」展 イベント風景

2022年3月20日より7月18日まで開催致しました「王朝文化への憧れ—雅の系譜」展におきまして、承天閣美術館学芸員によるスライドトークと記念講座の二種類のイベントを開催いたしました。

当館学芸員により、行われました、スライドトークと講座の様子。新型コロナウイルス感染対策として、今まで展示室内にて行われていた学芸員による作品解説を、承天閣美術館２階の講堂においてスクリーンを使った形で行っております。

スライドトークは30分、講座を90分で開催いたしました。



次回の展観

## 「武家政権の軌跡—権力者と寺」

室町幕府三代将軍足利義満によって創建された相国寺は、歴代の足利将軍と深いつながりがあり、ゆかりの寺宝が伝来しています。

相国寺とその塔頭に伝来する什物から武家政権との交流の軌跡をたどります。

※会期中無休。
ただしⅠ期とⅡ期の間は展示替えの為休館。

宝物拝見

# 足利義満像　元鹿苑院什

一幅　江戸時代　明暦三年・一六五七　絹本着色　相国寺蔵

室町幕府第三代将軍、足利義満（一三五八～一四〇八）は相国寺を創建した開基（かいき）である。相国寺法堂、開山堂などにその木像が安置され、五月に毎年厳修される鹿苑忌にはその肖像画が掲げられる。

義満の戒名は「鹿苑院殿准三宮大相国天山大居士」であり、その院号を冠した相国寺塔頭、鹿苑院は義満の塔所（墓所）であった。現在、相国寺承天閣美術館には相国寺及び塔頭伝来の複数の義満像が収蔵されている。そのうち、本図は足利義満の塔所である塔頭、鹿苑院伝来の一幅である。義満は応永元年（一三九四）三十七歳のときに相国寺第三世、空谷明応（くうこくみょうおう　一三二八～一四〇七）を戒師として出家した。本図はその禅宗様の出家者の姿で描かれている。

本図を納めた箱の蓋表には墨書で「鹿苑相公画像　鹿苑院常住」とある。また、修復前の軸木には墨書で「相国寺鹿苑院様　常住」「明暦三年丁酉二月二十八日　表具師新三郎（印）」と記されており、明暦三年（一六五七）に鹿苑院の発注で作成された一幅であることがうかがえる。なお、この年は義満の二五〇年遠忌にあたり、相国寺や鹿苑院では盛大な遠忌供養が催された。本図はその遠忌にあわせて新調されたものであろう。

永く鹿苑院に伝来したが、明治六年（一八七三）一月二十六日に鹿苑院が廃絶、本図を含む伝来の寺宝が本山相国寺に引き継がれた。

作品解説／承天閣美術館　学芸員　本多潤子



# 第四教区善應寺 第三世 五十嵐真吾新住職晋山

令和四年五月二十六日

（58ページに関連記事）

「晋山の偈」を唱える新住職

本派庶務部長より住職辞令を受け取る

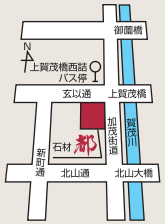
晋山式記念写真

永遠（とわ）の安らぎ　―石のカウンセラー―

株式会社 石材 都（みやこ）

相国寺供養墓

社長　吉田健次
会長　坪田忠男




正月以外無休　営業時間／AM8:30～PM6:00（日曜日PM5:00まで）

本　社：〒603-8103
京都市北区小山北玄以町24番地　電話(075)491-4114(代)（ヨクゾ ヨイイシ）
（上賀茂橋西詰バス停前）

工　場：京都市北区上賀茂神山389番24　電話(075)702-2440
（洛北病院バス停前）

御一報次第、遠近を問わず参上いたします。

# 心のすがた

天地同根（てんちどうこん） 万物一体（ばんぶついったい）（碧巌録）

空、山、花、自己。
自他の別なく一体である。

兵庫県佐用町　撮影◎教学部